



宮田小だより



み:自ら進んで学ぶ子 や:優しい心で助け合う子 た:たくましく粘り強い子
12月号 No14 令和2年12月9日 市川市立宮田小学校

創立70周年記念式典 ～歴史は刻まれ、未来は開かれる～

校長 本多 妃佐子

11月21日(土)に宮田小学校の創立70周年記念式典を挙行了しました。市川市議会、自治会・商店会の皆様、近隣校の校長・園長先生方並びにPTA役員の皆様、また、歴代の校長先生ならびに歴代のPTA会長の皆様、本校学校運営協議会委員の皆様にも多数ご臨席いただきました。児童の代表として、6年生と吹奏楽部が参加し、1～5年生は、教室でリモート参観しました。

さて、宮田小学校は、昭和25年に市川小学校から分離独立し、市川女学校、国府台高等学校女子部の跡地に設置され、現在に至ります。昭和41年、児童数は最大の1,214名(全29学級)を数えることとなります。翌42年には、増加する児童数に対応するため、鶴指小学校が分離開校されます。さらに、昭和54年には、162名の児童を分離して大洲小学校開校へと続いていきます。70年という歴史の中で、この間宮田小の卒業生は、7,417名を数え、現在芸術・文化・医療・経済その他の分野で活躍されています。

開校以来、70年という時を積み重ねる中で、地域の皆様方、保護者の皆様方、そして歴代の校長先生をはじめとする教職員が、まさに一丸となって宮田小の教育を進めてこられました。その熱き想いと情熱、ご努力には頭が下がる思いです。

文献を紐解きますと、受け継いだ校舎は雨漏り、浸水など老朽化が激しく、**屋根の葺き替え、塀の新設、砂場の砂入れ、花壇や藤棚の設置等**にPTAが協力しておこない、**植樹や本棚・放送機器の寄贈**もしていただきました。

また、昭和28年には、「児童の体位の向上ならびに食生活の改善を図るため」**市川市最初のC型完全給食**を申請・実施したとあります。狭い校庭が課題になっていましたが、PTAが**アパート一棟を買い取り、校地の一部とした**とも記述があります。校舎の建て替え時に、地域の皆様が奔走くださり、津田沼小に次ぎ、昭和35年に、**千葉県下で二番目に、鉄筋校舎が竣工**したことは皆様もご存じのことでしょう。22代校長 片野 良治先生のお言葉を借りますと、**「多くの熱意と善意と愛情の莫大な蓄積」が、本校の歴史です。**「子どもたちのために」という一点で力を合わせられることに感じ入り、胸が熱くなります。

子供達には、この「宮田小で学ぶ誇り」を持ち、みんなに支えられて今日の自分があることを胸に刻み、10年後、20年後、そして30年後の創立100周年には、社会の中心として活躍し、人生を切り開いていってほしいと願っています。「この地域に暮らしてよかった」と実感する子供たちの未来に、大きく期待するところです。

時は移り、人は変わっても、本校の素晴らしい伝統は、地域をはじめとされるたくさんの方の熱意に支えられながら、今後もさらに創造発展し、充実を遂げていくことを確信します。

給食費の公会計化・学校徴収金の口座振替について(お礼)

保護者の皆様のご理解ご協力によりまして、次年度からの運用に向けて手続きが確実に進んでいます。給食費の公会計化手続きにつきましては、100パーセント書類の受け取りが終わりました。ご多用の中、書類の記入、銀行への提出等、ありがとうございました。

ウサギのお客様

大洲小学校のウサギ小屋修繕工事に伴って、工事期間中、6羽のウサギを預かっています。3室ありますので、性格や特徴を見極めて、部屋割りをしました。宮田小のポッキーは、たくさんの来客にびっくりして、おとなしくしています。相性の良いオスをお嬢さん(?)にもらえるように、お願いしました。



「だるま学級物語」各学級に寄贈



宮田小では、子供たちのコミュニケーション能力や課題解決能力を育成するために、特別活動を通して、「みんなで創ろう 楽しい学校」を言葉に活動しています。平成25年より、教職員の研究の講師を務めて

いただいている ^{みやかわ やま}宮川八岐先生(元文

部科学省初等中等教育局視学官 日本体育大学教授 國學院大學教授 城西国際大学講師を歴任)から、著書「だるま学級物語」を25冊寄贈していただきました。この本に収められている話はどれも、子供たちが創意工夫して協働し、学級会を通して豊かな生活を作り出している実話です。3年生が読んだ感想を手紙にして、宮川先生に送りました。

「私も学級会で、勇気を出して意見を発表したいです。」

「困ったことを、全校のみんなで話し合っ解決したところがすごいです。」

「福祉施設の訪問を、ずっと続けているところが、私にはできないことだと思いました。」

3年生の素直な感想が、また「宮田っ子」らしく素敵でした。



コロナ予防に対する温度差

～ちょっとお耳を拝借～

学校はどうも説明が不十分で、意図することが、保護者に伝わっていないのではないかと感じる事がよくあります。コロナ予防についても同じです。

1 「健康観察カード」

まだ、忘れる人が後を絶ちません。昇降口で検温し、担任は家庭に電話をかけて様子を聞きます。その間、子供たちは授業が中断されてしまいます。「健康観察カード」は、集団で学習するためのパスポートなのです。

2 「家族の健康」きちんと申告していますか

外で活動している大人からの家庭内感染が、多く報道されています。「熱があったけれど、一日で下がった。」「38℃の熱があったけれど、今朝は下がった。」などの時も、大事をとって子供を登校させることは控えてください。PCR検査を受けた家族との接触が確認されると、陰性であっても、安全を確保するために、学校では毎日している消毒の範囲を広げて、職員総出で消毒します。多くの時間と労力を費やします。

もしくは、業者に消毒を依頼するために、一日休校措置をとることになります。

どうか、子供たちの学習機会を確保するために、ご理解ご協力を切にお願いします。